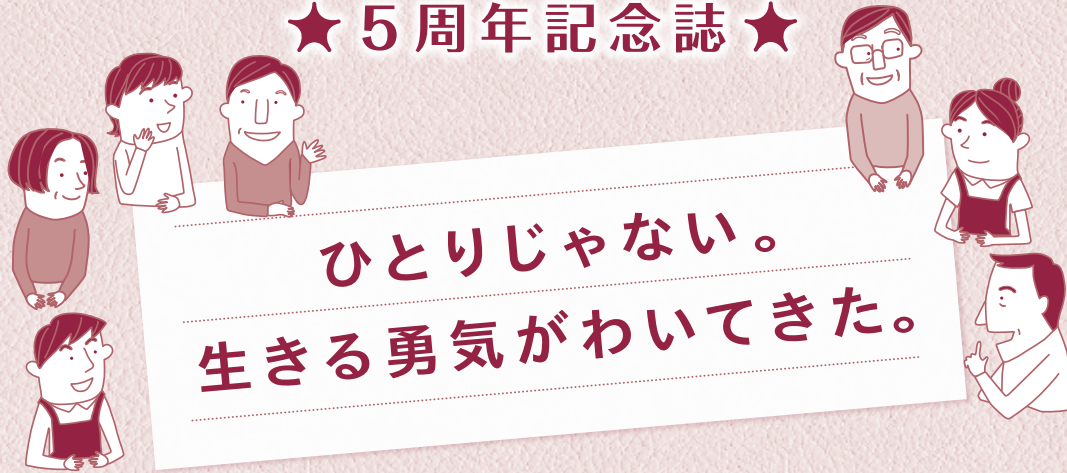
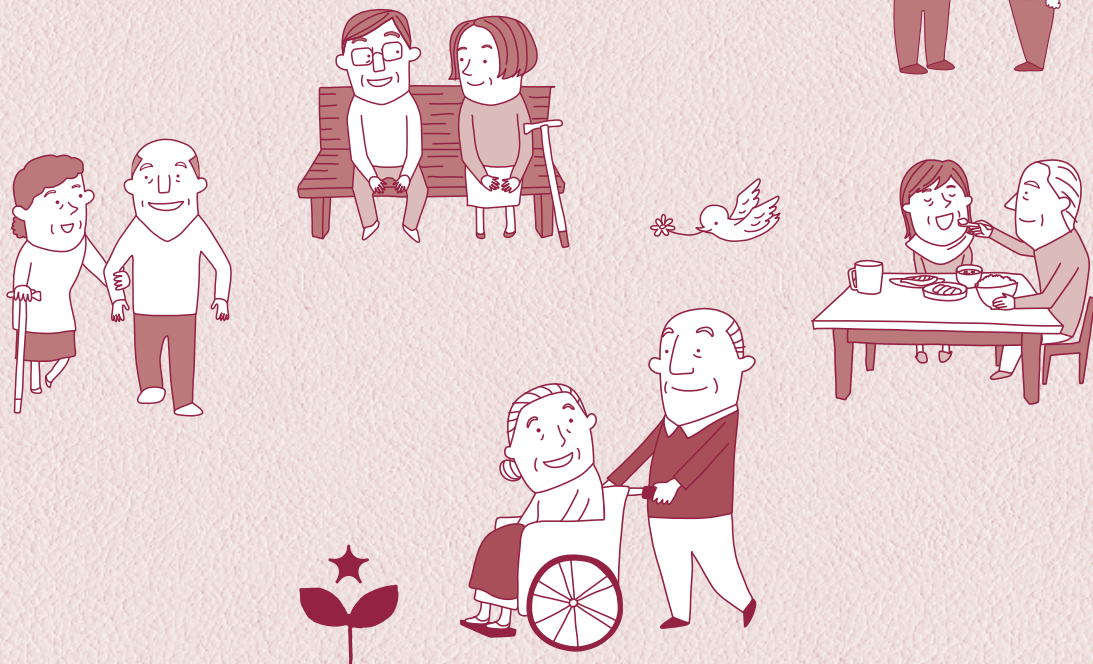


5th anniversary
Male caregiver and supporters' nationwide network

男性介護者と支援者の全国ネットワーク ★ 5周年記念誌 ★



男性介護者100万人への メッセージ



男性介護者と支援者の全国ネットワーク

<http://dansei-kaigo.jp/>

目次

男性介護者と支援者の全国ネットワーク5周年記念誌

男性介護者100万人へのメッセージ

ひとりじゃない。生きる勇気がわいてきた。

支え、支えられ、支え合い。更なる広がりをも！（荒川不二夫）	2
私たちのメッセージ	2
男性介護者と支援者の全国ネットワーク結成宣言	3
写真で見る5周年のあゆみ	4
お祝いのメッセージ	8
5周年おめでとう（鎌田 寛）	8
気づきを発信する（樋口恵子）	8
声をあげる大切さ痛感（高見国生）	9
介護事件おきないように「オヤジの会」立ち上げる（太田貞司）	9
人ごとではない、明日はわが身の問題として（山形伸次）	10
安心して介護し、されるためにさらなる発展に期待します（藤谷恵三）	10
ケアラー支援法制定をともに！（堀越栄子）	11
“ケアを担う”地域づくりを！（牧野史子）	11
ケアメンプロジェクト	12
介護退職ゼロ作戦（樋口恵子）	13
紙上リレートーク	14
私と男性介護者ネット（西山良孝）	14
出会いが待ち遠しい（岡村敏治）	14
「遅刻」から「貢献」へ（平尾 隆）	14
介護者の集いに参加して（廣瀬仁史）	15
父母に対する不安や怒りから受容へ 男性介護者ネットに感謝！（小番一弘）	15
男性介護者の集いを県域ではじめる（河野丈一郎）	15
雑誌の特集号で出会って（戒 世伊次）	16
TOMOを開設して4年目（山内輝昭）	16
瞳のように輝く男性介護ネット（塚田一弘）	16
全国ネットで社会を明るく（山本文雄）	17
体験記集は介護者の辞典（太田秀雄）	17
介護と仕事の両立に疲れて（清水昭二）	17
男性介護ネット5周年のあゆみ	18
男性介護者と支援者の全国ネットワーク会則	20

支え、支えられ、支え合い。 更なる広がりをも！

男性介護者と支援者の全国ネットワーク

代表 荒川 不二夫

(荒川区男性介護者の会〈オヤジの会〉会長)



男性介護者と支援者の全国ネットワーク（男性介護ネット）が発足して、早いもので5周年の節目を迎え、紆余曲折もなく、皆さんのご協力で祝うことができ、心より感謝し、御礼申し上げます。

年を経るに従い全国的に会員が増え、また各地でグループも作られ、ブロックでの活動の報告も聞かれるようになり、本当に全国ネットとしての広がりを見ることができるようになりました。このことは、各地の会員の皆さまや運営委員の皆さまのご努力は言うまでもなく、樋口恵子先生の励ましの言葉、キリン福祉財団の財政的な支援、そして立命館大学の皆さまをはじめとして、関係諸団体・諸機関の皆さまのご協力があればこそであります。このようなご協力無くしては、5周年のこの日を迎えることは不可能でした。

今後とも、皆さま方の支えを糧に邁進し、ネットワークの存続を不動のものとしていけるよう頑張ります。これからもよろしくお願い申し上げます。

〈私たちのメッセージ〉

全国100万人の男性介護者に、いま・ここに介護を生きる仲間として連帯のメッセージを送ります。

1. かたろう！男の介護
2. つたえよう！私の介護体験
3. ひろげよう！介護の仲間と集い
4. かえよう！介護保険と介護休業
5. なくそう！介護退職と介護事件

私たちは「介護の日」を記念し、この5つのスローガンを掲げて「ケアメン☆サミットJAPAN」を開催しました。介護によって仕事が断念され暮らしが破壊されることなく、その両立を目指す取り組みを、私たちの重要なミッション（使命）と確認しました。「介護退職ゼロ」の雇用環境と「介護する人・される人」を社会で支える包括的な介護支援制度の実現です。介護される人の幸せも介護者の幸せも共に尊重される社会でなければなりません。今回の「ケアメン☆サミットJAPAN」をその第一歩として、私たちのミッション（使命）を全国に広げていくことを宣言し、〈私たちのメッセージ〉とします。

2013年11月17日

男性介護者と支援者の全国ネットワーク
ケアメン☆サミットJAPAN参加者一同

結成宣言

この4月で介護保険がスタートして10年を迎えます。この制度は、家族介護者の負担解消を大きな旗印として施行されましたが、それでも今なお家族介護者の抱える負担や課題は解消されたとはいえず、不幸な介護事件は後を絶ちません。むしろ、家族介護者をめぐっては、介護保険制度など一定の在宅介護の環境整備の中で以前とは異なる新たな状況や問題も発生しています。在宅介護の長期化、高齢化、重度化であり、介護する男性の増加もその一つの特徴的な現れといえます。すでに「主たる介護者」の4人に1人は男性となり、都市部では3割を超えともいわれています。欧米ではすでに4割を超えているという報告もあり、介護を担う男性はもはや珍しい存在ではありません。

男女が共に介護を担う社会という視点から見れば、介護役割を担う男性が増えてくるというのは、たしかに喜ばしいことには違いありません。しかし、これまで家事や介護などのスキルを期持されることがなかった男性介護者の実態や、この間、続発している介護殺人や虐待の加害者の多くが息子や夫という男性であるという事実をみれば、決して手放して歓迎されるような事態とは言えないのが現実です。

一方、地域に目を向ければ、男性介護者の悩みや願いに寄り添い、課題を共有しながら、男性介護者の会づくりや支援活動が、徐々にではありますが広がっています。そして、これらの活動を通して、男性の介護実態やその支援方法についての貴重な経験知が蓄積されつつあります。しかし、こうした動向は、残念ながら社会全体に広く認知されるまでには至っていません。

いまあらためて、家族介護者の抱える問題を、男性介護者に焦点をあてることによって、介護政策上の問題、さらにはわが国の政治・経済・社会システムの問題をより明らかにすることができるに違いありません。そしてこのことが誰もが老後を健やかに過ごすことができる社会を創り出す力のひとつになると思います。

私たちは、介護する側もされる側も、家族介護者の男性も女性も、誰もが安心して暮らせる社会ができるように、①各地で誕生しつつある男性介護者の会や支援活動について、相互の交流促進や情報交換を促進することによって、男性介護者の孤立の解消と、地域を基盤とした男性介護者相互の支え合いの仕組みづくりを支援したいと考えています。さらに、②家族介護者支援についての調査研究や政策提言も、積極的に行っていきたいと考えています。男性介護者と支援者の全国的なネットワークが必要だ、という思いから、志を同じくする皆さんと共におよそ一年間に渡る準備期間を経て、ここに『男性介護者と支援者の全国ネットワーク』を結成するに至りました。

男性介護者の会や支援活動団体をはじめ、介護のまっただ中にある男性介護者や介護を終えた男性介護者、介護専門職・ボランティアなどの支援者、研究者など、この男性介護者をめぐる問題に関心のある皆さんはもちろん、広く家族介護者支援や介護政策に関心を持つ多くの市民の積極的なご参加を訴えるものです。

介護保険制度の発足10年を目前にして、私たちは新しい介護社会の実現を目指し『男性介護者と支援者の全国ネットワーク』を結成することをここに宣言します。

2009年3月8日

男性介護者と支援者の全国ネットワーク

代表 荒川不二夫

写真で見る5周年のあゆみ

2009年度



男性介護ネット発足集会(2009年3月8日、立命館大学にて、国際女性デーの日に)



男性介護ネット発会の第1回総会(2009年3月8日)



発足会後の総会で代表に選出されあいさつする荒川不二夫代表(2009年3月8日)



発足後、東京での初めての運営委員会

2010年度



2010年3月7日、男性介護ネット1周年記念式典で講演する長門裕之さん



2010年3月6日、男性介護シンポジウムでの基調講演・湯原悦子さん(日本社会福祉大学准教授)



北海道男性介護者の集い (2010年9月18日)



1周年記念式典リレートーク・外山努さん (大阪府／認知症のひとと家族の会)

2011年度



2011年記念式典リレートーク・里村良一さん (岐阜県／認知症のひとと家族の会)



男性介護者と支援の全国交流会 (2011年8月28日、長野県上田市にて)

2012年度



3周年記念シンポジウムで基調講演する沖藤典子さん
(2012年3月2日)



介護退職ゼロ作戦！フォーラム2012
(2012年11月23日)



2012年3月3日、3周年前夜祭、交流会。前列左から津止事務局長、山形伸次キリン福祉財団常務理事、外山文治監督、荒川不二夫代表、堀越栄子日本ケアラー連盟代表理事

2013年度



2013年3月10日、男性介護ネット4周年記念講演「ペコロスの母に会いに行く」岡野雄一さん(フリーライター、漫画家)



2013年3月9日、男性介護者研究会シンポジウム



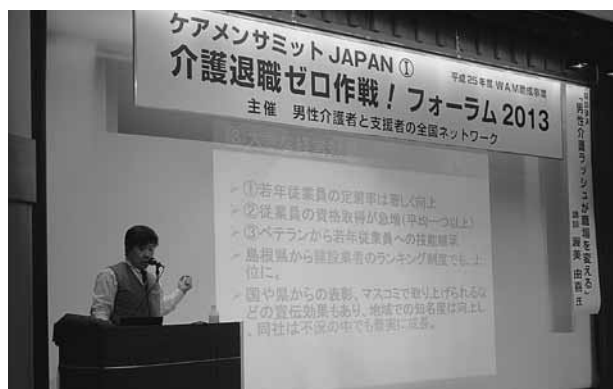
ケアメンサミット JAPAN I 交流会 (2013年11月16日)



ケアメンサミット JAPAN I ワークショップ
(2013年11月17日)



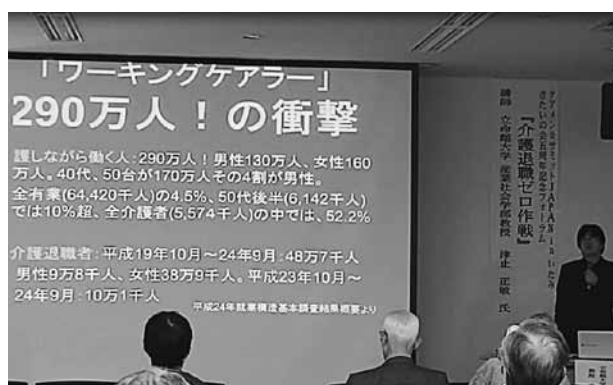
2013年11月16日、大阪・住吉ほっこりサロン3周年記念イベント「できる男の生活講座」



介護退職ゼロ作戦！フォーラム2013での渥美由喜さんの基調講演（2013年11月17日）



2013年10月26日、長野での交流会で紙芝居「父の戦争体験記」を演じる宮沢秀雄さん



2014年2月7日、「伊丹きたいの会」5周年記念フォーラム

2014年度



男性介護シンポジウム「男性支援の可能性」（2014年3月8日）、基調講演の伊藤公雄さん（京都大学教授）



5周年前夜祭でリズム体操を披露する谷口正尚さん（富山県）（2014年3月8日）



5周年集合写真（2014年3月9日）

お祝いのメッセージ

※肩書はご寄稿頂いた時のものです。

男性介護者を
できるだけ
あたためかく
まえる Network
にしたいですね
5周年、おめでとう
医師、作家、鎌田實

(顧問)



気付きを発信する

樋口 恵子

(高齢社会をよくする女性の会理事長／東京家政大学名誉教授／顧問)



男性介護者と支援者の全国ネットワーク（男性介護ネット）が早くも創設5周年をお迎えのこと、心からお喜び申し上げます。まさに時代の変わり目を告げる動きでした。私たち自身、貴会の動きに触発されてこの動きに参加させていただきました。今回のメッセージはそこご報告です。

昨年の全国集会で私は講演をさせていただきましたが、その後のシンポジウムで、日本新薬の人事担当、吉元恵美子さんがこんな提言をなさいました。「育児休業など仕事と育児の両立については、厚労省は愛称くるみで普及をはかり、環境整備がすすんだ企業を認証している。介護にも同じ配慮が必要ではないか。」私は心から共感し、東京に戻って何かできないかと相談をはじめました。そこへ8月に提出された「社会保障改革国民会議」が今後増加が予想される介護離職について、適切な対策をとるよう明言したのです。

2013年9月、私たち、男性介護ネットの津止事務局長を含めて有識者18人による「介護による離職ゼロをめざす要望書」を田村厚生労働大臣に直接お渡しすることができました。田村大臣は、数多い高齢社会対策の中で「認知症と介護離職」が二大問題と受けとめて下さいました。

そして早速、昨年末から「くるみん」に相当する仕事と介護両援のマークが公募されました。只今愛称のほうをネットで募集中のはず、やがて育児と並んで介護に関する職場環境が注目の的となる見込みです。

何でもモノは言うもの、提案すべきもの。おまかせでなく私たち自身が気がついたことは発言することです。昨年の京都集会の吉元恵美子さんのご発言がきっかけで、小さいとはいえ中央官庁の政策を動かすことができました。男性介護ネットのおかげです。ありがとうございました。

声をあげる大切さ痛感

高見 国生

(公益社団法人認知症の人と家族の会代表理事／顧問)



一昨昨日から消費税が増税され、本日、医療介護総合確保推進法案が審議入りしました。

介護保険では、要支援の訪問介護、通所介護の介護保険外し、年金280万円以上の人の利用料2割へなど、「家族の会」が昨年の総会アピールで、「増税の一方で負担引き上げ、給付抑制は道理にも合わない」と批判したことが進められようとしています。

単なる使いにくさの増大だけでなく、介護保険の理念が後退すると考えて、2月から独自で署名活動を始めました。「近所の知人や友人にお願いして集めました」などとの手紙が着いて会員から続々と署名が集まりました。

男性介護ネット5周年、「家族の会」は35年目。

組織にとっての一つの区切りの年ですが、日本の社会保障制度にとっては、重大な曲がり角と言えます。「最低限度の生活を保障する。この責任は国家にある」と高らかに謳った1950年の社会保障審議会の勧告を、「自助の共同化である社会保険が基本。公助はそれを補完するもの」として“変質”させるかのような社会保障制度改革国民会議報告。

ほけても安心して暮らせる社会を願う当事者・家族の立場から声をあげる大切さをいっそう痛感する昨今です。

(4月4日記)

介護事件おきないようにと「オヤジの会」立ち上げる

太田 貞司

(神奈川県立保健福祉大学名誉教授／元荒川保健所相談員〈MSW〉／顧問)



「男性介護ネット」創立5周年おめでとうございます。5年前、立命館大学に集まって「ネット」創設を呼び掛けて以来、この間、男性介護者問題の理解が大きく変わってきたと思います。荒川不二夫会長はじめ会員の皆様のご努力の成果だと思います。

私は30年ほど前に、地域の中で困難な課題を持つ家族介護者をどの様に見つけ、早期にどう支援体制をつくるかという問題意識から、新聞記事を素材に「介護事件」を研究し、老老介護だけでなく、2世代世帯の仕事と介護の両立を迫られている家族介護者、なかでも男性介護者の問題が大きいことを明らかにしました。しかし、男性介護者問題は、当時、まだまだ埋もれていました。その頃、介護されていた荒川会長のご苦勞を間近に見ていた私は、こうし

た調査からも、その困難な状況を理解しました。

その後、「介護事件」が起きないようにと、荒川会長が東京荒川区で「オヤジの会」を立ち上げました。それがまた全国の「男性介護ネット」に結びついていったのですから、とても素晴らしいことだと思います。社会的な対策という点ではまだまだ多くの課題がありますが、老老介護で配偶者を介護している男性介護者、また仕事を辞めて介護している男性介護者、そして130万人と言われる働きながら介護している男性介護者の姿が、少しずつですが、多くの人たちに知られるようになってきました。男性介護者の交流を深める皆様のいっそうの活動、社会的対策の充実を願って。

人ごとではない、明日はわが身の問題として

山形 伸次

(公益財団法人キリン福祉財団常務理事)



男性介護ネットの5周年おめでとうございます。

介護体験を語り合うことからスタートした活動も、わずか5年という歳月でこれほどまでに大きな社会問題として男性介護者の実態が浮き彫りにされ、テレビ、新聞、雑誌などメディアに取り上げられるとは誰もが予想しなかったのではないのでしょうか。

もちろん事務局をはじめ多くの会員、関係者の情報発信のおかげでもあります。孤立や退職など潜在的に多くの問題を抱えていた男性による介護というものが世の中で認知されてきた証とも言えます。

改めてこれまで運営に関わってこられた関係各位

に厚く御礼申し上げます。

毎年、想定外のような課題が浮きぼりにされる度に、「人ごとではない、明日はわが身の問題」として取り組んできましたが、今や全国にネットワークが広がり、地域連携にもつながりを持ち始め着実に前進していることに心強さを感じています。

この男性介護ネットの活動が男性特有の介護の困難さ、未熟さを克服し、ネットワーク化するに留まらず老若男女を問わず全ての介護者が抱えている課題解決に向け、さらには持続可能な社会保障の構築に向け牽引役となって益々ご発展されますことを期待しています。

(3月8日記)

安心して介護し、されるために さらなる発展に期待します

藤谷 恵三

(日本医療福祉生活協同組合連合会副会長／発足呼掛人)



男性介護者と支援者の全国ネットワークの5周年おめでとうございます。

私たち医療福祉の生協が、男性介護の問題に触れたのは、2006年10月～11月に、立命館大学男性介護研究会（代表：津止正敏教授）との共同で、「男性介護者全国調査」を行った時でした。この調査（17地域で297人を調査）で、初めて男性介護者の7割が無職で、平均年齢69.3歳であり、介護者自身も病気を抱えていることなどの実態がわかり、この問題の深刻さや政策的な立ち遅れに愕然としたのを覚えています。

その後、男性介護者自身が立ち上がるための呼びかけが行われ、2009年に男性介護ネットが結成されました。男性介護ネットは、男性介護者の悩みや経験の交流から、政府や行政に対する政策提案まで幅

広い活動にとりくみ、今や介護問題の解決には欠くことのできない組織となっています。

超高齢化社会になっても安心して暮らすためには、もっともっと多彩なネットワークが求められます。医療福祉生協も皆さんとともに「地域まるごと健康づくり」の大事な課題として男性介護者のネットワークづくりにとりくみます。



TOMO例会（2012年4月12日、京都市）

ケアラー支援法制定をともに！

堀越 栄子

(一般社団法人日本ケアラー連盟代表理事／日本女子大学教授)



2012年3月4日の男性介護ネット3周年の会で「提言！私たちの家族等介護者支援法」と題して報告をさせていただいてから、あっという間に2年たちました。その後も法制定に向けて取り組みをすすめてきましたが、あまり時間をかけることもできず、また政権交代もありなかなか進まず、男性介護ネットの会員の方から叱咤激励もいただきました。そしてようやくこの春3月19日に、「自民党ケアラー議員連盟」の設立総会が開かれました。立法等も視野に入れつつ対策を検討することになっています。

議連の会長は、河村建夫衆議院議員です。当日は、ケアラーの現状についてのヒアリングに日本ケアラー連盟の牧野代表理事と堀越が招かれ40分程度の説明と質疑が行われました。今後、多様なケアラーの現状や早期発見・早期支援を始めとした支援策の構想、さらにケアラーの抱える健康悪化、離職、社会的孤立、貧困等の問題はまさに社会的に解決すべき課題であることを私たちから発信することが求められます。

“ケアを担う”地域づくりを！

牧野 史子

(NPO法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン理事長)



設立5周年おめでとうございます。5年前、発足式での皆さんの期待に満ちた熱い会場の雰囲気をも覚えています。津止先生をはじめ、関係者の方々の日々の地道な努力に支えられ、さまざまな実を結んでこられた5年間だったのではないかと思います。

特に全国的なネットワークの拡がりには目を見張るものがありました。男性達の想いとエネルギーが源になり、各地にそれぞれの男性介護者のコミュニティが生まれ、さらに共感をベースに地域を超えてつながり、大きな社会的な渦を創って来られたのではないのでしょうか。

また、男性介護者の日常やニーズをクリアにすることで、“介護”というものを、より“生活”や“人生”という視点から、しっかりと輪郭づけをしてこられたのではないかと感じています。

これからの数年間で、さらに男性介護者のみなさんの声が大きくなうねりとなって、日本の施策やシス

テムを大きく変革していく原動力になっていくのではと、期待しております。

“ケアを担う”ことにより社会から排除されない地域社会づくりを目指し、共に発信していきましょう。ますますのご発展をお祈りしています。



男性介護ネット5周年・第6回総会（2014年3月9日）

ケアメンプロジェクト

—「介護退職ゼロ作戦」を社会運動に—

〈ケアメン〉

ケアメン—男性介護ネットの会員にはもう耳に馴染んだ言葉かもしれないが、世間にはまだ新語・珍語の類かもしれない。イクメンが社会の温かな受容力の中で浸透し始めた頃、私たちはイクメンに倣って介護する男性をケアメンと呼ぼうではないか、そう呼んで社会的支援の対象にしようではないか、と訴えてきた。主たる介護者の3人に1人が男性の時代、イクメン以上にケアメンこそ時代の先端を走っているのではないかと、各種のイベントでそう主張してきた。いまやその数は100万人を超え、大介護時代到来のシンボルにもなっている。

これまで介護は辛くて嫌なもの、できれば避けたいものとされてきた。育児や介護などケアを排除して成り立つ働き方も「デキる」ビジネスマンの典型とされてきた。しかし、ケアを組み込んだ暮らし方や働き方のほうが、実は人生をより豊かにできるのではないかと、私たちは主張してきた。家族等のケアにアクセス可能な暮らしをもっとポジティブに打ち出してみたい。ケアを基準にすればこの社会が抱える欠陥が炙り出され、改革方向がよりクリアになるのではないかと。ケアメンに込めた私たちのメッセージは概ねこのようなものだった。

〈ケアメン・プロジェクトの広がり〉

以降、男性介護ネットでは仕事や家計、家事、孤立など介護する男性の課題を社会化するムーブメントをケアメン・プロジェクトと称して進めてきたが、その後、各地の男女共同参画センターや地域包括支援センター、介護者組織、NPO等での研修会や講座の幾つかがケアメンを冠として開催されるようになった。インターネットでは早々にケアメンが広がった。あるサイトでは「高齢者の介護を積極的に行う男性。(中略)これまで家庭にいる女性にま

かせがちだった介護を、働いている男性も受けもとむということ」を男性介護ネットは提唱している、と解説している。介護福祉士などをケアメンと説明し、丁寧にも次のような使用例も掲載しているサイトもある。「私も年だし、親も年だし、結婚するならケアメンだよな」。私たちとは少し趣旨は違うが、悪くない。

こうして男性介護者の抱える諸課題を社会化しようというアクション・プログラム「ケアメン・プロジェクト」は徐々に社会に浸透し始めた。

〈介護退職ゼロ作戦〉

言葉の力はとてつもなく大きい。ケアメン・プロジェクトにまた一つ強力なフレーズが加わった。男性介護ネット3周年の記念式典(2012年)に樋口恵子さんから「介護退職ゼロ作戦」と題するメッセージを頂いた。

「(前略)男たちが介護から語るとき、世の中が変わる／さあ、男も女も、介護退職ゼロ作戦／介護と仕事両立社会へ。／男たちと同じように女も仕事と、社会とともに生きる／介護する人が幸せでなかったら／介護される人も幸せになれません」

「介護退職ゼロ作戦」がケアメン・プロジェクトの新たなスローガンとなった。

仕事が生全の全、時間の全のような生活を余儀なくされてきたのが多くの男性の実態だ。介護者となる中高年の男性の場合は特にそうだった。親や配偶者の介護が始まれば、仕事と介護の板ばさみになって、結局は退職に追い込まれる。家族の大黒柱という規範が過剰な家族責任を呼び込み、さらに葛藤を深めていく。多くの人がそのような不安を抱えながら暮らしているはずだ。介護による退職は、介護者の社会的経済的な安定を奪うばかりでなく、同僚や友人という親しい関係、コミュニティをも壊していく。特に、地域との縁を作ってこなかった男性介護者の孤立は、虐待や心中等々といった不幸な

介護事件の温床としても深刻な影響が指摘されている。

だが、確かに介護は負担も大きい、そればかりではないということも多く介護者が指摘していることだ。ケアを通してささやかではあっても喜びや希望に気付く暮らしもある。新しい発見があれば関係の修復もある。厳しい現実への介護者発の抗いのプロジェクトがケアを包み込むコミュニティを仲介すると、私たちは信じている。

〈ワーク・ライフ・バランス—仕事と介護が折り合う社会を〉

2010年国民生活基礎調査では主たる介護者のうち男性はもう120万人、その3分の1以上は働き盛

りの60歳未満だ。60代前半の男性でも8割近くが就労し、毎年の介護離職者が10万人を超えていることからすれば、介護退職の予備軍は、女性の介護者も含めれば更に膨大な数に上っていることは容易に予測できる。一部の人たちの問題だとして無視することは誰にもできなくなった。ここにワーク・ライフ・バランス（WLB）という新しい政策テーマにも特徴づけられるような介護と仕事のテーマが政府や自治体、企業、労組、市民団体をも巻き込み社会問題化せざるを得ない背景があり、私たちが介護と仕事と暮らしが折り合える環境を要求する根拠があるのだ。

「ひとりじゃない！」に加えて「介護退職ゼロ作戦！」も、私たちの社会運動の新しいスローガンになった。

介護退職ゼロ作戦

—男性介護ネット3周年記念式典へいただいたメッセージ—

応援団 樋口恵子

男性介護者が増えた

3年前ネットワークが生まれ

男性介護者が語りはじめた

いろいろなことがわかった

男がその存在理由としてきた仕事を
介護は容赦なく奪う、ということ。

中間管理職にたどりついたミスター A

定年退職金が楽しみだったミスター B

資金繰りして店開きしたミスター C

中高年男子のささやかな未来を、介護は断ち切る
なんと多くのものが失われることか

男たちは自分の老いへの貯蓄と年金を

会社は長年投じた人材養成費と

ベテラン社員の能力を

そして国と自治体は、多額の所得税を、
社会保険料の財源を。

この年齢のサラリーマン男性が

国の財政を背負ってきたことを忘れてはならない。

本人と職場と国と自治体と保険団体と。

四方大損の介護離職

育児家事の延長線で介護を女が一身に背負っていたころ、

男は見ても見ぬふりで言った。

「だって、仕事があるもの」

介護量の激増と担い手家族の少子化で、

介護の男性化がすすんだ

仕事を失い、慣れぬ家事介護、突然の孤立。

立ちすくむ男たちが、歩き出し語りはじめたとき
世の中は気づく

膨大な数の女たち、介護を担う女たちも

男たちと同じものを失ってきたことを

男たちが介護から語るとき、世の中が変わる。

さあ、男も女も、介護退職ゼロ作戦

介護と仕事両立社会へ。

男たちと同じように女も仕事と、社会とともに生きる

介護する人が幸せでなかったら

介護される人も幸せになれません。

紙上リレートーク

私と男性介護者ネット

西山良孝

男性介護者支援団体ほっこり庵（NPO法人スマイルウェイ）代表（兵庫県）

男性介護ネット設立5周年おめでとうございます。

5年前、設立当時の男性介護者支援団体は数団体しかありませんでしたが、今は200を超える男性介護者の団体が全国に誕生しているとお聞きして驚いています。

5年の間の成長の中核となり、男性介護者支援活動のけん引役として最も大きな功績をあげたのは、間違いなく男性介護ネットでした。これからも全国の男性介護者のために道を照らし続けてください。



九州においても毎年「交流会」を開いています。その連絡役を手伝っていますが、多くの介護者・支援者との出会いが増え貴重な体験を得ています。今後も一層の情報交換や支援活動を強め、仲間の輪を広げたい気持ちでいっぱいです。



第1回九州ブロック（2010年11月20日、福岡市にて）

「遅刻」から「貢献」へ

平尾 隆

男性介護者の会みやび代表（富山県）

1999年（平成11年）1月、妻は、脳腫瘍摘出手術後の後遺症のため介護が必要となった。小学4年と2年の息子を抱え仕事との両立を目指したが、遅刻が多くなって責められ、勤務先に居場所はなかった。



2009年（平成21年）9月、初めて参加した男性介護ネットの集まりでは、1時間近く遅れた。だが、会場には遅刻してきた者を受け入れる空気があった。そこは、勤務先とは別世界であり、居心地の良い場所だった。

初参加から5年、妻は回復基調にある。同時に私の行動範囲は広まり、遅刻も過去のものとなった。介護によって仕事が断念され、暮らしの破壊や孤立を招かないよう、男性介護ネットのさらなる発展を祈るとともに微力ながら貢献していきたい。

出合いが待ち遠しい

岡村敏治

男性介護ネットワーク九州ブロック世話人（福岡県）
（認知症の人と家族の会福岡県支部）

男性介護ネット5回目の誕生日おめでとうございます！

会員約150名でスタートした会も、今日までの間、荒川代表・津止事務局長をはじめ、運営委員皆様の普及活動等のご尽力とキリン財団様の御支援によって、会員数は800名を超えると聞き及んでいます。



また、支援内容もネットワークの構築や介護退職ゼロ作戦、ケアメンサミット開催…と、介護保険法に影響を与えるほどの組織になり喜ばしい限りです。

介護者の集いに参加して

廣瀬 仁史

山梨やろうの会（山梨県）

私が介護者の会（やろうの会）に参加して感じた事は、今まで自分一人で悩み苦しんでいて、この先どうなるのかと暗い事しか頭になく毎日が辛かった。



自殺も考えた事もあった、しかし平成22年に地域包括から男性だけの介護者の会があるので参加してみたらどうか？と誘われ参加した。

最初はあまり感じなかったが、段々と話をしていくうちに皆辛い事を頑張っているんだと思って自分の励みとなった。

それ以前は母の衰えを受け入れる事が出来ずに苦しい毎日であった。

しかし参加して、皆さんの体験を聞いて「やれる事がまだ沢山ある」と気が付き前向きに介護に携わる事が出来る様になり、今では楽しみを見つけれらるまでになった、毎朝母がオシッコを沢山漏らしていても、今日も元気に起きる事が出来て（生きている）と思え感謝の毎日です、一日も長く長生きしてもらいたいと思っています。

.....

父母に対する不安や怒りから受容へ 男性介護者ネットに感謝！

小 番 一 弘

北海道男性介護者と支援者のつどい代表（北海道）

認知症の母親の介護のため、東京から札幌へ戻ってきたのが49歳の時、それから早いもので4年が経過しました。戻ってきた当時は、この先どう介護すればいい



のか、母親はどうなっていくのか、という不安と、母をしっかり介護できていない父親への怒りを覚えていました。そういった時期に男性介護者ネットを知り、津止先生や斉藤先生に札幌までお越しいただき、全国の様々な困難事例や活動事例をお聞きし、勇気や希望をいただきました。

北海道内の男性介護者と触れ合う機会も持つことができ、自分の介護は不安や怒りから受容へ変わっていきました。今後も、同様の環境に置かれている男性介護者と情報共有し、お互い笑顔で介護ができるケアメンを目指していきたいと思います。

.....

男性介護者の集いを県域ではじめる

河 野 丈 一 郎

認知症のひとと家族の会宮崎支部（宮崎県）

男性介護ネット5周年おめでとうございます。

私は妻の居宅介護生活に62歳で突入し14年を経過しました。介護の右も左も全く分からず、当初相談先にも困った。懸命に努力し、後に認知症のひとと家族



の会に世話になり男性介護者の集いを立ち上げ、細々と仲間づくりに努力しています。地方に住む介護者のうち参加者が少なく、介護難題にどう対応されているのか心配しています。

私達は県域で家族の会の力を借り、年4回、男性介護者の集いを開催しています。今後核家族の中、男性介護者は重要になります。5周年にあたり男性介護を語り、伝え、介護体験を広げ男性介護者のコ



ケアメンサミット JAPAN I 懇親会（2013年11月16日）

コミュニティを全国一様に築き上げましょう。

雑誌の特集号で出会って

戒 世伊次

広島市「4木の会」世話人（広島県）

成立5周年お目出とうございます。

私と男性介護ネットとの出会いは、平成21年5月、週刊ダイヤモンドの特集号でした。

男性介護ネットに入会し、「男性介護者100万人へのメッセージ」を求め同じ境遇にある方が数多くいる事を知り、この人達との仲間作りをと考えました。

「4木の会」設立では、県下の「100万人へのメッセージ」投稿者3名の方にお会いし設立に尽力を頂き現在に至っています。

男性介護ネットには、「介護者支援法の設定」に向けて今以上の旗振りをお願いし、私共も微力ながら事務局と歩調を合わせて国に対しお願いして行く所存です。

最後になりますが、「我々介護者に幸多かれ!!」と祈願しています。



TOMOを開設して4年目

山内輝昭

男性介護者を支援する会代表（京都府）

「男性介護者を支援する会」を開設して、昨年12月から4年目の活動に入った。その間、随分と多彩な男性達に出会う事が出来た。一様に明るく、前向きな男性が多いのに驚かされる。男性介護者の集いの場「TOMO」に集まる男性達の輪には、いつも笑顔が



広がる。しかし、垣間見せる表情に陰りを見せる時がある。家族介護に係わる中で、自分の人生を見つめる時、このままで良いのか？ 家族を介護する時、在宅介護の是非？ 介護生活が長いと、先行きの経済的な不安感。TOMOに参加し、仲間を見てほっとし、一瞬家族の事が頭をよぎる。昨日の事、今朝の事、明日の事次々と脳裏をよぎる。いつまでも続き、取り止めもなく、終わりの無い談笑の中に、不安感がよぎる。

瞳のように輝く男性介護ネット

塚田一弘

シルバーバックの会（長野県）

年末の29日(日)に認知症の父親(89歳)が昨年4回目の緊急入院で、私は24時間付き添いの病院生活、大晦日の午後から「家に帰る」と興奮が始まり深夜・未明にはピークに達し、ベッドの柵を外そうとする父親を私が阻止(2時間)、ベッドの柵を乗り越えようとする父親を私もベッドに上がり後ろから抱える(2時間)など、一睡もしないまま新年を迎えました。

望月祐子さんに「3食たべて休養して」と励まされましたが、父親の傍を離れることができず3食せんべい菓子で空腹を満たしながら、「介護退職ゼロ作戦！フォーラム2013」のレジュメなどを読み返し、男性介護ネットの素晴らしさを実感して折れそうになる心を奮い立たせ頑張りました。



5周年樋口恵子先生記念講演（2014年3月9日）

全国ネットで社会を明るく

山本文雄

荒川区男性介護者の会（オヤジの会）副代表（東京都）

「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」創立5周年を迎えたこと、おめでとうございます。

10年程前に荒川区で妹と一緒に住む兄が熱中症になり、その後、嚥下障害が発生。高齢者世帯で心配で、隣の区から妻と一緒に通って看ていました。荒川区役所に相談したところ、オヤジの会を紹介され、早速入会しました。

会では月1回の例会に、区役所の方や、その道の講師の方々をお招きして介護・医療等いろいろな面でアドバイスを頂き、また会員さんとのお酒を交えての情報交換などもストレスの解消になっています。

今は兄妹2人が要介護になり、施設に入れましたので、肉体的には楽になりましたが、金銭面で先行きがどうなるのか不安です。

私どものオヤジの会は今年20周年になります。昨年は東京都社会福祉協議会より表彰され、また一つ元気の元ができて、心のハリになっています。

身近な地域でもっともこのような会ができ、参加しやすい環境ができると、介護している方々も安心できるのではないかと思います。これからの全国ネットのご活躍を心から祈念し、お祝いのメッセージといたします。



体験記集は介護者の辞典

太田秀雄

認知症の人と家族の会宮城県支部世話人
角田市認知症家族会代表（宮城県）

親や妻の介護に係わるようになると、仕事一筋に

生きてきた男性たちはどのように対応していくのでしょうか。認知症、どんな病気。介護どう対応すれば？ 見当もつかない、相談も出来ず孤立していく。

このような問題を解決してこうと設立されたのが男性介護者と支援者の全国ネットワークです。男達の介護体験記集は第4集まで発行され、生々しい体験記には困難を克服し、介護によって新たな人生の生き方を学んだとの報告が多く述べてあり、私もその一人です。

男達の介護体験記集は新たに介護者になる方々の「介護辞典」です。この素晴らしい介護辞典を活用し、介護での困難な問題を解決し、男性介護者と支援者の全国ネットワークに結集し会を力強い大きな組織にするために共に頑張っていきましょう。

会の5周年記念を祝福し、益々の発展を祈念します。



介護と仕事の両立に疲れて

清水昭二

山梨やろうの会（山梨県）

私が男性介護ネットを知ったのは5年前で、親父が交通事故で入院、認知症が始まった頃です。

親父の介護と仕事の両立に疲れた頃で、親父に暴言等で辛く当たっていました。男性介護

ネットを知り入会。その後、津止先生から電話を頂き、山梨でも男性介護者の集いを開催しませんかと提案され、地域包括の方々の協力で集いと津止先生の講演会も開催出来ました。そこからやろうの会の活動が始まりました。男性介護ネット・山梨の活動を通じて私は精神的に救われました。

他の男性介護者と交流する事で、私より大変な方も日々頑張っている、私も出来る事は頑張ろうという気持ちになりました。



男性介護ネット5周年のあゆみ

年	ネットワークの活動	ブロック（地域）での活動
2009年度（2009年3月）	■ 3／7 設立イベント（立命館大学末川会館レストランカーム） ■ 3／8 呼びかけ人会議・総会（午前） 男性介護者と支援者の全国ネットワーク発足会、 記念講演：「男こそ名介護者になれる～男性介護者ネットへの期待～」 社団法人認知症の人と家族の会代表理事 高見国生さん 立命館大学末川記念館1階講義室 150名が参加 【2009年度総括】 ■ 第1回男性介護者介護体験記募集（08年12月～09年1月） ■ 入会案内リーフレット作成（15,000部） ■ ホームページの運営開始 ■ 通信1号～3号発行 ■ 会員No.435 ■ 第1集男性介護体験記発行（152通） ■ 第2回男性介護者介護体験記募集 □ 様々なイベントやマスコミでの報道を契機に会員数は発足時150名が1年間で400名に達する団体となる	10／10 「男性介護者交流会」 in 長野（シルバーバックの会） 講演「語り」がもつ力 帝京大学地域看護学准教授 吉岡幸子さん 11／7 「男性介護者のつどい in あらかわ」（荒川おやじの会） 12／6 「家族介護を考えるつどい in 東京」（東京都社協）
2010年度（2010年3月）	■ 3／6 1周年記念協賛企画 男性介護者研究会シンポジウム テーマ：「家族介護者支援の現状と課題—国際比較の観点から—」 立命館大学 創思館カンファレンスルーム ■ 3／7 第2回総会 立命館大学以学館1階1号ホール 結成1周年記念式典 基調講演：「介護が教えてくれたこと・夫婦のあゆみ」 長門裕之さん（俳優） 【2010年度総括】 ■ 会員No.560（46都道府県に会員） ■ 第3回男性介護者介護体験記募集 ■ 第2集男性介護体験記発行（148通） ■ 会員調査（9月実施、140名） ■ 通信4～6号発行 ■ 男性介護資料集—介護の扉を開く第1集（10年4月～11年3月）発行 ■ 「オトコの介護を生きるあなたへ」（男性介護ネット編）出版 ■ 男性介護者支援啓発リーフレット「ひとりじゃない。生きる勇気がわいてきた。」の作成 □ 地域での男性介護者交流会・つどいの広がり □ 男性介護者を取り上げるメディアの増加	10／9 「男性介護者交流会」 in 長野（シルバーバックの会） 「全国の男性介護者がつながる・広がる！」 65名参加 11／20 第1回九州ブロック交流会  秋、マレットゴルフで集まるシルバーバックの会の会員（長野県上田市）
2011年度（2011年3月）	■ 3／12 男性介護ネット2周年協賛企画 男性介護者研究会シンポジウム 基調講演：「家族であること 介護すること—在宅と施設のあいだで—」 早瀬圭一さん（毎日新聞特別編集委員、北陸学院大学副学長） 立命館大学以学館 ■ 第3回総会（3／13）立命館大学創思館カンファレンスルーム 2周年記念式典 「ひろげよう男性介護者の居場所づくり」 基調講演：荒川不二夫さん（男性介護者ネット代表） 【2011年度総括】 ■ 会員No.654 ■ 第4回男性介護者介護体験記募集（12年2月～3月） ■ 第3集男性介護体験記発行（137名） ■ 通信7～8号発行 ■ 男性介護資料集—介護の扉を開く第2集（11年9月）発行 ■ 男性介護者の介護実態と支援の課題—男性介護者ネット第1回会員調査報告書—（11年9月）発行 □ 「介護と仕事と暮らし」ケアメン プロジェクトの実践 □ 会員からの提案を受け「体験記の贈呈代行サービス」の実施	8／28 「男性介護者交流会」 in 長野（シルバーバックの会） 9／3 第2回九州ブロック交流会 8／4 第1回男性介護者支援ひょうごネットワーク  滋賀県男性介護者のつどい

2012年度 (2012年3月)	■ 3/2 男性介護ネット3周年協賛企画 男性介護者研究会シンポジウム「介護と仕事の両立 今何が問われているかーケアメン・プロジェクト」 基調講演：「介護と仕事との両立をめぐる現状と課題」 沖藤典子さん（ノンフィクション作家） 「京都市における介護と仕事との両立実態調査報告」 斉藤真緒さん（立命館大学准教授） ■ 3/3 第4回総会 結成3周年記念式典 「つながる力 男性介護者『ケアメン』コミュニティ“此の岸のこと”」 外山文治さん（映画監督） 基調講演：「提言！ 私たちの家族等介護者支援法」 堀越栄子さん（日本女子大学家政学部教授、日本ケアラー連盟代表理事） 【2012年度総括】 ■ 会員No.754 ■ 第5回男性介護者介護体験記募集（13年3月～5月） ■ 第4集男性介護体験記発行（78名） ■ 通信9号発行（12年7月） ■ 広報啓発チラシ「介護退職ゼロ作戦」の発行（1万部） ■ 「『介護退職ゼロ作戦』という社会運動」1000部発行 ■ 11/11 介護退職ゼロ作戦！ フォーラム2012 「介護で退職しなくてもいい社会を創ろう！ーあなたの介護体験を社会の共有財産に」 基調報告：「介護退職ゼロ作戦！」 津止正敏さん（立命館大学教授） 全体助言者：池田心豪さん（独立行政法人労働政策研究研修機構副主任研究員） □ 組織強化とひろがり、多団体とのネットワーキング 地域での会づくり、集い活動の発展、県域・広域ネットワークの構築 北信越・北陸ブロックが立ち上がる	10/21 第3回九州ブロック交流会 38名参加 11/1 第2回男性介護者支援ひょうごネットワーク 11/3 男性介護ネット交流会in 長野（シルバーバックの会） 「結ぶ！ つながる！ 介護の縁」 牧野史子さん講演（NPO法人サポートネットワークセンターアラジン代表） 11/17 北海道男性介護者の集い交流会 11/23 第24回KYOあけぼのフェスティバル2012ワークショップ 「介護退職ゼロ作戦！ー介護と仕事との両立支援」 12/9 家族介護を考えるつどい「3/11 そのとき介護者は」（東京都社協） 2/24 第1回北陸ブロック結成フォーラム 荻崎やろうの会発足記念会（山梨県）
2013年度 (2013年3月)	■ 3/9 男性介護ネット4周年協賛企画 男性介護者研究会シンポジウム「介護と仕事の両立ー大介護時代を生きるためにー」 基調講演：「大介護時代を生きる」樋口恵子さん（高齢社会をよくする女性の会理事長・東京家政大学名誉教授） ■ 3/10 第5回総会（150名参加） 結成4周年記念式典 「介護退職ゼロ作戦！ 介護しながら働き続けられる社会へ」 講演：「ペコロスの母に会いに行く」 岡野雄一さん（フリーライター・漫画家）、聞き手・木下悟さん（西日本新聞編集委員） 【2013年度】 ■ 第5集 男性介護体験記発行（61名） ■ 11/16～17 ケアメンサミットJAPAN I 11/16 全国のケアメン・グループ交流会 コーポイン京都 11/17 全国のケアメングループ代表者交流会（午前） 「介護退職ゼロ作戦フォーラム 2013」（午後） 基調講演：「男性介護ラッシュが職場を変える」 渥美由喜さん（㈱東レ経営研究所） □ 「介護離職ゼロをめざすための要望書」を厚生労働大臣に提出（賛同者に事務局長名）13年9月 □ 男性介護者と支援者の全国ネットワーク団体実態調査（88団体）	10/20 第4回九州ブロック交流会 10/26 「男性介護者交流会」in 長野（シルバーバックの会） 講演：「介護と仕事ー介護退職ゼロをめざしてー」津止正敏さん（立命館大学教授） 男性介護者の介護体験の番組が多く制作されるようになった
2014年度 (2014年3月)	■ 3/8～9 ケアメンサミットJAPAN II 3/8 男性介護ネット5周年企画・男性介護研究会シンポジウム 基調講演：「男性支援の可能性」伊藤公雄さん（京都大学教授） 3/9 第6回総会（150名参加） 結成5周年記念式典 基調講演：「ケアメンのこれから」樋口恵子さん（NPO法人高齢社会をよくする女性の会代表）	5周年記念式典前夜祭でのファッションショー (2014年3月8日)

男性介護者と支援者の全国ネットワーク会則

(名称)

第1条 本会は、男性介護者と支援者の全国ネットワーク（略称:男性介護ネット）という。

(所在地)

第2条 本会の所在地は下記におく。

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

立命館大学人間科学研究所気付

(目的)

第3条 本会は、男性介護者と支援者の全国的なネットワークづくりを行い、介護する側もされる側も、誰もが安心して暮らせる社会を目指して、男性介護者の会や支援活動の交流及び情報交換の促進を図るとともに、総合的な家族介護者支援についての調査研究や政策提言を行なうことを目的とする。

(会員)

第4条 本会の会員は、本会の目的に賛同し、本会の活動に参加する男性介護者の会や支援者の会（設立準備会を含む）及び個人とする。

2 会員は別に定める会費を支払う。

(賛助会員)

第5条 本会の目的達成のために協力する個人および団体は賛助会員となることができる。

2 賛助会員は別に定める賛助会費を支払う。

(活動)

第6条 本会は、会の目的を達成するために次の活動を行なう。

(1)活動の交流

(2)情報の収集・発信

(3)政策の提言

(4)調査・研究

(5)その他、会の目的の達成に必要な活動

(総会)

第7条 本会の総会は、代表の呼び掛けにより年1回開催し、出席した会員の過半数をもって議決する。

2 総会での議決事項は次のようなものとする。

(1)活動方針・報告

(2)予算・決算

(3)役員の選出

(4)その他必要な事項

(役員及び事務局)

第8条 本会には次のような役員を置く。

(1)代表 1名

(2)副代表 若干名

(3)事務局長 1名

(4)運営委員 若干名

(5)監事 2名

(6)顧問 必要に応じて

2 役員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 本会に事務局をおき、事務局員は事務局長が任命する。

(会議)

第9条 本会は、総会の活動遂行のために次のような会議を必要に応じて開く。

(1)総会決定の具体化や総会議案など重要議案を起案するための役員会議（代表・副代表・事務局長・運営委員）。

(2)本会の日常の運営を執行するための3役会議（代表・副代表・事務局長）

(3)本会の日常の事務を執行するための事務局会議（事務局長、事務局員）

(4)上記、何れの会議も文書審議も可とする。

(財政)

第10条 本会の財政は会費・賛助会費・寄付および事業収入等でまかなう。

2 会計年度は4月1日より3月31日までとする。

(付則)

この会則は2009年3月8日より発効する。

2010年7月7日 所在地移転

別表

会費	・個人一口1,000円
	・団体一口3,000円
賛助会費	・一口10,000円

Male caregiver and supporters' nationwide network



ひとりじゃない。
生きる勇気が
わいてきた。

の会入会案内の



男性介護ネット
男性介護者と支援者の全国ネットワーク
<http://dansei-kaigo.jp/>

みなさんから寄せられた手記

私は一人ではない。今の多くの方々が同じ思いを抱き妻や夫を、あるいは親を介護されているのだ、と勇気付けられた。
(夫:77歳)

隣人から野菜や果物の差し入れや母親への声かけなどに、心底感謝の気持ちでいっぱいになった。
(息子:40代)

今一番大変なことは、“しもの世話”だ。それでも私がやるんだ。やる人いないもの。
(息子:55歳)

炊事、洗濯、掃除は妻がデイサービスセンターに行っている間に。時々妻が思い出したように「お父ちゃんゴメンね」というのが嬉しい。
(夫:85歳)

推薦人 樋口恵子さんの発足会でのメッセージ

「介護は人間しかしない、他の動物は決してしない営みです。ですから、介護をすることは、人間の証明です…。男性諸兄、介護の世界へようこそ！
真人間の世界へ、ウェルカム！
男女両性の協力で、介護が大きな化学変化を引き起こし、介護の地平が新たに拓けますように。広く、大きく、豊かに」

男性介護ネット
男性介護者と支援者の全国ネットワーク

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学人間科学研究所気付
Tel&Fax:075-466-3306 Eメール:info@dansei-kaigo.jp
<http://dansei-kaigo.jp/>

このリーフレットは独立行政法人福祉政策推進機構(長寿・子育て・障害者政策)作成事業で発行しています 2012.12.10

男性介護ネットとは？
Male caregiver and supporters' nationwide network



すでに介護者の3人に1人は男性が占める時代。男女が共に介護を担う社会という視点から見れば喜ばしいことには違いありません。

しかし他方で、男性介護者は、家事や介護のスキルを獲得する機会に乏しく、孤立しがちであると指摘されています。

私たちは、介護する側もされる側も、家族介護者の男性も女性も、誰もが安心して暮らせる社会になるように、次の目的で活動しています。

- 1 各地で誕生しつつある男性介護者の会や支援活動について、相互の交流や情報交換を促進します。そして、男性介護者の孤立の解消と地域を基盤とした男性介護者相互の支え合いの仕組みづくりを支援します。
- 2 家族介護者支援についての調査研究や政策提言も、積極的に行います。

男性介護者と支援者の全国ネットワーク(略称:男性介護ネット)は2009年3月に発足し、男性介護者と支援者の全国的なネットワークづくりをすすめます。



①「男性介護ネット」の取り組み

● 男性介護者の調査・研究の実施 男性介護者の介護実態を明らかにしながら、介護保険など介護支援制度のあり方や介護と仕事の課題、介護と経済的問題などの介護に関する調査・研究を実施し、要介護者支援と共に家族介護者支援の必要性について積極的な政策提言を行います。	● 体験記の募集・発行 介護者の「経験知」は社会の共有財産です。「体験記」を読み、それぞれの貴重な介護体験が心をうち、行く手を明るくしてくれました。辞書のように手近において、繰り返し読もうと思っています」(読者の感想より) 
● 交流会・ワークショップ 全国の介護当事者・支援団体との交流を促進。東京・京都・長野等で男性介護者交流会を開催し、会員相互の交流や情報交換をすすめます。各地域でワークショップを行い、家族介護者の目線から「こうしたい！」介護環境を考えます。 	● 情報発信 http://dansei-kaigo.jp/ 会報「男性介護者ネットワーク通信」を発行し、各地の男性介護者の会や支援活動の取り組みの紹介、介護保険情報、会員の声、介護のアドバイスなど、様々な情報を紹介します。ホームページには、情報発信の他にも、男の介護コラムやおたより、相談・交流の投稿ができるコーナーも設けています。

Approach

男性介護ネット 1 周年記念式典

「語ろう! / 伝えよう! / そして広げよう!」

男たちの介護体験

介護される人も介護する人も幸せになれる社会へ

日 時: 2010年3月7日(日)

午前部 総 会 11:00 ~ 12:00 (開場・受付開始 10:30 ~)

午後部 1 周年記念式典 13:00 ~ 16:00 (開場・受付開始 12:30 ~)

3月6日(土) 前夜祭 17:30 ~ 19:30

場 所: 立命館大学衣笠キャンパス (京都市北区等持院北町 56-1)

会 場: 総 会 創想館 1F カンファレンスルーム 1 周年記念式典 以学館 1F1号ホール

前夜祭 末川記念会館地下 1F レストラン「カルム」

参加費 無 料 (要事前予約)

PROGRAM

3月6日(土) 17:30 ~ 19:30 前夜祭 [当事者同士の懇話会]

3月7日(日) 1 周年記念式典

【午前部】 男性介護ネット 第2 総会

【午後部】 男性介護ネット 1 周年記念式典

13:00 ~ 14:00 記念講演: 長門 裕之氏 (俳優)

「介護が教えたこと・支那のあゆみ」

14:00 ~ リレートーク: 当事者による介護体験

1 周年記念式典 男性介護ネットシンポジウム

2010年3月6日(土) 13:00 ~ 16:30

会 場: 立命館大学 衣笠キャンパス 創想館カンファレンスルーム

テーマ: 介護者支援の現状と課題 - 介護者の負担を減らす -

① 基調講演: 長門 裕之氏 ② 基調講演: 長門 裕之氏 ③ 基調講演: 長門 裕之氏

④ 基調講演: 長門 裕之氏 ⑤ 基調講演: 長門 裕之氏 ⑥ 基調講演: 長門 裕之氏

⑦ 基調講演: 長門 裕之氏 ⑧ 基調講演: 長門 裕之氏 ⑨ 基調講演: 長門 裕之氏

⑩ 基調講演: 長門 裕之氏 ⑪ 基調講演: 長門 裕之氏 ⑫ 基調講演: 長門 裕之氏

⑬ 基調講演: 長門 裕之氏 ⑭ 基調講演: 長門 裕之氏 ⑮ 基調講演: 長門 裕之氏

⑯ 基調講演: 長門 裕之氏 ⑰ 基調講演: 長門 裕之氏 ⑱ 基調講演: 長門 裕之氏

⑲ 基調講演: 長門 裕之氏 ⑳ 基調講演: 長門 裕之氏 ㉑ 基調講演: 長門 裕之氏

㉒ 基調講演: 長門 裕之氏 ㉓ 基調講演: 長門 裕之氏 ㉔ 基調講演: 長門 裕之氏

㉕ 基調講演: 長門 裕之氏 ㉖ 基調講演: 長門 裕之氏 ㉗ 基調講演: 長門 裕之氏

㉘ 基調講演: 長門 裕之氏 ㉙ 基調講演: 長門 裕之氏 ㉚ 基調講演: 長門 裕之氏

㉛ 基調講演: 長門 裕之氏 ㉜ 基調講演: 長門 裕之氏 ㉝ 基調講演: 長門 裕之氏

㉞ 基調講演: 長門 裕之氏 ㉟ 基調講演: 長門 裕之氏 ㊱ 基調講演: 長門 裕之氏

㊲ 基調講演: 長門 裕之氏 ㊳ 基調講演: 長門 裕之氏 ㊴ 基調講演: 長門 裕之氏

㊵ 基調講演: 長門 裕之氏 ㊶ 基調講演: 長門 裕之氏 ㊷ 基調講演: 長門 裕之氏

㊸ 基調講演: 長門 裕之氏 ㊹ 基調講演: 長門 裕之氏 ㊺ 基調講演: 長門 裕之氏

㊻ 基調講演: 長門 裕之氏 ㊼ 基調講演: 長門 裕之氏 ㊽ 基調講演: 長門 裕之氏

㊾ 基調講演: 長門 裕之氏 ㊿ 基調講演: 長門 裕之氏

立命館大学人間科学研究所

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 Fax: 075-465-8245 E-mail: ningen@ritsumei.ac.jp

URL: http://www.ritsumei.ac.jp/ningen/

① 男性介護者と支援者の全国ネットワーク事務局

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル 京都社会福祉会館内「社団法人認知症の人と家族の会」受付

Tel. 075-811-8195 Fax. 075-811-8188 E-mail: info@dansei-kaigo.jp

② 立命館大学人間科学研究所

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 Tel. 075-465-8358 Fax. 075-465-8245 E-mail: ningen@ritsumei.ac.jp

主催: 男性介護者と支援者の全国ネットワーク

共催: 立命館大学人間科学研究所 後援: 社団法人キリン福祉財団

男性介護ネット 1 周年記念式典チラシ

介護退職ゼロ作戦!

フォーラム 2012

介護で退職しなくてもいい社会を創ろう!

あなたの介護体験を社会の共有財産に

男性介護者と支援者の全国ネットワークは、「介護退職ゼロ作戦!」をスローガンに、介護で退職しなくてもいい社会環境の創りを目標として、下記の通りフォーラムを開催します。皆さんのご参加をお待ちしています。裏面には全国各地のイベントを記しています。

日時: 2012年11月11日(日)「介護の日」

13:30 ~ 16:00 (13:00 ~ 開場)

場所: 立命館大学衣笠キャンパス (創想館 303)

内容: ①「介護退職ゼロ作戦!」基調報告 津止正敏 (男性介護ネット事務局代表)

②私の体験と提言「リレートーク」 介護と仕事の両立課題の経験者より

※全体協賛者: 池田心蔵氏 (独立行政法人労働政策研究・研修機構 副所長)

申し込み先・問い合わせ先

男性介護者と支援者の全国ネットワーク / 立命館大学男性介護研究会

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

立命館大学人間科学研究所 受付

TEL & FAX. 075-466-3306

E-mail: info@dansei-kaigo.jp

(電話対応は毎週水曜日の 13:00 ~ 16:00)

当日「参加して発表(10分程度)」できる人、「文書にて参加(2千字程度)」できる人、いずれでも結構です。締切: 2012年10月30日(日)

「私の体験と提言」申込書

送付先: FAX. 075-466-3306 E-mail: info@dansei-kaigo.jp

氏 名	生年月日	年	月	日	生 (歳)
姓 名	()				
住 所	()				
TEL	()				
E-mail	()				
参加形態	①参加して発表 ②文書にて参加				
発表内容	①いま介護と仕事の両立に直面している ②過去に両立に成功 ③介護退職した ④その他 ()				

介護退職ゼロ作戦フォーラム 2012 チラシ

第5回 男性介護者 介護体験記募集

全国100万人のケアメンへ

貴方の介護体験を 社会の共有財産に

手記・随筆・短歌・川柳... どのような形式でも結構です。あなたの介護体験をお聞かせください。

「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」では、男性介護者の「声」を集めた体験記を発行しています。今年で5回目になる募集。みなさんの力作をお待ちしています。

募集期間 2013年3月10日(日) ~ 2013年5月10日(金)

介護体験ならなんでも結構です。特に次のテーマについて皆様の体験をお持ちしています。

①「介護の工夫やストレス対処」 ②「仕事と介護」 ③「介護と家族」

④ 応募者は男性介護者に限ります。ただし、第三者の聞き取りでも結構です。

⑤ 介護を終えた男性介護者OBの応募も歓迎します。

⑥ 作品の字数は、2000字以内を目安にしてください。

* 手書きでも、ワープロ(パソコン)でも構いません。用紙のサイズは問いません。原稿用紙でなくても結構です。短い手記・随筆・短歌・川柳は「書簡形式用紙」に記入し、ご送付ください。その際、切手は不要です。

⑦ 可能な方はご自身のプロフィール・写真等を添えて下さい。

⑧ 送付方法は、郵便、メール、FAX、その他いずれでも構いません。

⑨ うら形の応募用紙に、作品の題名、応募内職、氏名(フリガナ)、生年月日、住所、連絡先、職業、公表の可否、介護歴、誰を介護しているか、所属団体を明記し、体験記と同時のうらで送付ください。または、「書簡形式用紙」を切りとり、必要事項を記入の上ご応募ください(その場合、応募用紙は必要ありません)。

⑩ 応募作品は返却いたしません。

⑪ 応募作品は選考のうえ「体験記集」としてまとめます。

* 応募者の個人情報は、主催者が管理し、他の目的に使用することはありません。

「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

立命館大学人間科学研究所 受付

fax: 075-466-3306

e-mail: info@dansei-kaigo.jp

男性介護ネット

主催: 男性介護者と支援者の全国ネットワーク

協力: 全国バーキンソン病友の会

【問い合わせ先】 〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学人間科学研究所 受付

【問い合わせ先】 〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学人間科学研究所 受付

Tel/Fax: 075-466-3306 E-mail: info@dansei-kaigo.jp

※電話は毎週水曜日の 13:00 ~ 16:00

男性介護者介護体験記募集チラシ

男性介護ネット 5 周年記念事業

ケアメン★サミット JAPAN II

CARE-MEN SUMMIT JAPAN

京都で かなう! 男の介護 つたえよう! 私の介護経験 ひろげよう! 介護の仲間と集い かなう! 介護保険・介護休業 なくそう! 介護退職・介護事件

男性介護ネットは5周年を迎えます。いまや男性介護者は3人に1人。この5年間で「ケアメン」という言葉も生まれ、各地で男性介護者の会や集い(ケアメングループ)が次々と誕生しました。これまでで5年を振り返ると同時に、よりよい介護社会のための一歩を踏み出そう。男性介護ネットと日本社会のこれからを熱く語り合おう。

日時: 2014年3月8日(土)・9日(日)

場所: キャンパスプラザ京都(京都駅前)両日とも

前夜祭のみ 京都タワーホテル 6F ナポリ・ミラノ

8日(土) 13:00 ~ 18:00 会場: キャンパスプラザ京都 第1講義室(5F) 参加費: 無料

内 容: ①13:00 ~ 16:30 シンポジウム「男性支援の可能性」(12:30開場受付) ②17:00 ~ 18:00 男性介護者意見交流会

※前夜祭 (京都タワーホテル 18:30 ~ 20:30 (18:00開場受付)) 参加費 3000円

9日(日) 10:30 ~ 15:30 会場: キャンパスプラザ京都 第3講義室(4F) 参加費: 無料

内 容: ①10:30 ~ 12:00 男性介護ネット総会(10:00開場受付) ②13:00 ~ 15:30 記念式典(12:30開場受付)

・基調講演 樋口孝子先生「ケアメンのこれから」(仮)

・男性介護者リレートーク

申し込み先・問い合わせ先

男性介護者と支援者の全国ネットワーク / 立命館大学男性介護研究会

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学人間科学研究所 受付

TEL & FAX. 075-466-3306 E-mail: info@dansei-kaigo.jp

(電話対応は毎週水曜日の 13:00 ~ 16:00)

平成25年度WAM(独立行政法人福祉医療機構)助成事業

男性介護ネット 5 周年記念事業チラシ

男性介護ネット書籍



男性介護者100万人への メッセージ 第1～5集

(第1、第4集は品切れ)

男性介護者と支援者の
全国ネットワーク編

第1集：2009年9月発行、第2集：2010年11
月発行、第3集：2012年1月発行、第4集：
2013年4月発行、第5集：2014年3月発行

2,000円＋税（会員価格1,000円）



オトコの 介護を生きる あなたへ

—男性介護者 100万人へのメッセージ—

男性介護者と支援者の
全国ネットワーク編著

発行●クリエイツかもがわ
1,500円＋税

男性介護者と支援者の全国ネットワーク5周年記念誌

男性介護者100万人へのメッセージ

ひとりじゃない。生きる勇気がわいてきた。

2014年6月1日発行

発行 男性介護者と支援者の全国ネットワーク

〒603-8577

京都市北区等持院北町56-1

立命館大学人間科学研究所気付

TEL&FAX：075-466-3306

メール：info@dansei-kaigo.jp